

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Aユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1-55		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医者の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医者・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミやミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。
・四季折々の行事の開催や、手厚い人員配置を整えているため、個別の外出支援など入居者様の要望に合わせた日常の楽しみとなる支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR太平駅から徒歩2～3分の位置にある2階建て4ユニットのグループホームで、各ユニットの定員は6名、合計定員24名である。近くに小学校や駅、スーパーなどがあり、利便性が高い。小学校の運動会を見に行ったり、利用者と一緒にJRを利用して出かけることもできる。各階は、開放的な事務所を中心に各6名の2ユニットがあり、同一フロアの職員が行き来しやすい造りとなっている。室内は明るく清潔で、季節の装飾が多く飾られ、トイレや浴室も使いやすく、トイレは利用者のプライバシーが保ちやすい位置にある。地域交流の面では、既存の交流のほか、今年度は管理者が町内の役員を対象に認知症の講義を行っている。馴染みの関係継続の面では、利用者が友人知人との関係が継続しやすいよう、来訪者を歓迎し、携帯電話の使用も支援している。行きつけの喫茶店や、編み物の道具の買い物も同行している。ケアマネジメントの面では、フェイスシートとアセスメントシートを詳しく作成、更新して利用者の情報を十分に把握、共有している。食事の面では、決められた食材の中で、調理を工夫しておいしい食事を提供している。入浴支援では、利用者の希望に応じて午前午後とも入浴でき、利用者によっては週3～4回、入浴を楽しむ方もいる。明るく快適な環境のもと、利用者がゆったりと安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。	3項目からなる事業所独自の理念に「地域とのつながりを大切にします」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念をユニット入り口に掲示し、ケアサービスを振り返る際に、理念を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じての交流、町内のイベントへの参加(夏祭り、運動会、日常の散歩など)やボランティアを招いての交流を行っている。	町内会の夏祭りに参加したり、小学校の運動会を見学しており、小学生が学校行事の案内に事業所に来ることもある。年2回程度、歌のボランティアが来訪している。今年度は管理者が町内の役員を対象に認知症の講義を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町内会の役員を行っており、その中で月に一度開催される会議で、地域が抱える福祉関係の問題があれば、常にアドバイスや協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で出た意見・要望があれば、改善出来るものは改善し、サービス向上に繋げている。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会役員、複数の家族の参加を得て、感染症や外部評価などをテーマとしているが、計画的なテーマの設定は少ない。議事録を家族に送付している。	会議のテーマを計画的に設定するとともに、会議案内に次回のテーマを記載したり、会議の際にテーマに沿った資料を用意するなどの取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査や事故報告での関わりはあるものの、それ以外では積極的な関わりは薄い現状にある。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加する際に情報提供を受けている。管理者は市や区の管理者連絡会に参加し、行政担当者と情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとに不適切ケア防止委員会、年2回、身体拘束に関する研修を行っている。今後は後で見やすいよう研修資料を整理しておく方針である。玄関は日中施錠せず、自由に入りができる。利用者の出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見や、日々ご家族様が訪問した際に相談や要望があった際は、会議の場で検討し極力運営に反映させている。	運営推進会議に参加する家族が多く、その際や来訪時に意見を聞き、意見を「支援相談経過記録」に記載するとともに、連絡ノートにも記して職員が共有している。2か月ごとに、個人ごとのお便りを作成して写真と一緒に家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の利益に繋がるものは積極的に取り入れるようにしている。	毎月のユニット会議で利用者ごとのカンファレンスも行い、活発に意見交換している。管理者は年2回、職員と面談している。職員は、行事や備品管理、室内装飾などを分担して運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員とはいかないが、別事業所への訪問や、別事業者から職員の派遣を行い、普段と違った価値観やホーム作りを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（Aユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の交流が保たれるように、面会の時間制限を設けていないことと、行事の際はご家族も参加出来る催しも開催し、一緒に楽しめる配慮を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。	5名ほどの利用者に対し友人や知人が来訪しており、友人と食事に出かける方もいる。また、個人で携帯電話の使用も支援している。職員や家族の支援で行きつけの美容室やお墓参り、馴染みの喫茶店、手芸店などに出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。	3分の1程の利用者は希望や意向を表出でき、難しい方場合は表情や行動から把握している。フェイスシートとアセスメントシートを詳しく作成、更新して利用者の情報を十分に把握、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。	介護計画を3か月ごとに見直し作成している。計画作成担当者によるモニタリングシートをもとに会議で意見交換し、計画を更新している。日々の記録をパソコンで行い、ケアプランに関する内容は「ケアプラン」の適用を入れ、見直ししやすくしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送ることで、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加(夏祭りや運動会)し、日々の楽しみに繋がるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。	全員が月2回、協力医の往診を受け、月4回の訪問看護も受けている。その他の通院も事業所で送迎している。往診は「往診記録」、通院は「通院記録」を作成し、情報を共有している。	

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気付きを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を正しく伝えと同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡を取り、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。	重度化の対応指針に看取りの考え方を明記し、利用開始時に同意書を得ている。状態変化など主治医の判断から終末期には、本人・家族の意向に沿って個別に看取り指針を作成し同意を得ている。その際に看取りの研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えると共に、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。	昨年度は2回の避難訓練を実施しているが消防署や地域住民の協力は得られていない。今年度中に昼夜想定避難訓練を予定している。地震を想定し対応などを職員間で話し合っている。救急救命訓練の受講は職員の約4割にとどまっている。	消防署と地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。また救急救命訓練に、全職員が定期的に受講ができるよう計画的な進め方を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮してもらっている。	名前を「さん」づけで呼びかけ丁寧に対応している。新人研修での接遇や不適切なケアを学び、言葉遣いには注意している。日々の記録はパソコンで行い、個人情報などは適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問かけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。	献立作成と食材配達、業者委託している。調理は各ユニットで利用者の状態に応じた食形態としている。出前や個別外食、シェフ経験のある職員が調理するフルコースを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。	全利用者に1日の水分摂取量と排泄チェック表を作成している。それを基に日中、介助が必要な利用者はトイレを使用している。日中もおむつ使用であったが入居後に布地の下着に変わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴と定めているが、本人の希望があれば午前入浴にも対応している。また、入浴回数も制限をしていない。	日曜日のみ入浴日に設定していないが、他の曜日は随時入浴できる。夏季は、週に3～4回シャワーを利用する人もいる。入浴を拒む利用者には、入浴剤を入れて「温泉ですよ」と言葉かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、お酒やタバコの希望があれば制限していない。また、外食やホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出を計画し、外出出来るように支援している。またお盆などでのお墓参りではご家族様の協力を得て外出している。	温暖な季節は毎日のように車椅子の利用者も職員と一緒に事業所周辺の散歩に出ている。行事で車を利用し円山動物園や旭山公園に行ったり、個別の外出で喫茶店や手芸店、ドラックストアで買い物をしている。車椅子でもJRを利用して札幌駅周辺に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。	エアコンと空気清浄機で快適に過ごせるリビングでレクリエーションで百人一首やゲーム、歌や体操をしながら安心して過ごしている。ちぎり絵を職員と一緒に作成し壁に飾ってある。季節感のある飾りを施し明るく清潔な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、今までの生活空間に近づけてもらっている。	カーテンと照明器具が備えられている居室を、自分好みの馴染みの品を置いて暮らしている。趣味の名山の本やアルバム、飾り物、家族の写真、仏壇などを置いて、好きなラジオを聴いて自由に暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Bユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1-55		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医者の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医者・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミやミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。
・四季折々の行事の開催や、手厚い人員配置を整えているため、個別の外出支援など入居者様の要望に合わせた日常の楽しみとなる支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じての交流、町内のイベントへの参加(夏祭り、運動会、日常の散歩など)やボランティアを招いての交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町内会の役員を行っており、その中で月に一度開催される会議で、地域が抱える福祉関係の問題があれば、常にアドバイスや協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で出た意見・要望があれば、改善出来るものは改善し、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査や事故報告での関わりはあるものの、それ以外では積極的な関わりは薄い現状にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見や、日々ご家族様が訪問した際に相談や要望があった際は、会議の場で検討し極力運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の利益に繋がるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員とはいかないが、別事業所への訪問や、別事業者から職員の派遣を行い、普段と違った価値観やホーム作りを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の交流が保たれるように、面会の時間制限を設けていないことと、行事の際はご家族も参加出来る催しも開催し、一緒に楽しめる配慮を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送ること、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加(夏祭りや運動会)し、日々の楽しみに繋がるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を正しく伝えと同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡を取り、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えると共に、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行い、排泄の失敗が減るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴と定めているが、本人の希望があれば午前入浴にも対応している。また、入浴回数も制限をしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、お酒やタバコの希望があれば制限していない。また、外食やホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出を計画し、外出出来るように支援している。またお盆などのお墓参りではご家族様の協力を得て外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Cユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1-55		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医者の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医者・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミやミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。
・四季折々の行事の開催や、手厚い人員配置を整えているため、個別の外出支援など入居者様の要望に合わせた日常の楽しみとなる支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じての交流、町内のイベントへの参加(夏祭り、運動会、日常の散歩など)やボランティアを招いての交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町内会の役員を行っており、その中で月に一度開催される会議で、地域が抱える福祉関係の問題があれば、常にアドバイスや協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で出た意見・要望があれば、改善出来るものは改善し、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査や事故報告での関わりはあるものの、それ以外では積極的な関わりは薄い現状にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見や、日々ご家族様が訪問した際に相談や要望があった際は、会議の場で検討し極力運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の利益に繋がるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員とはいかないが、別事業所への訪問や、別事業者から職員の派遣を行い、普段と違った価値観やホーム作りを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の交流が保たれるように、面会の時間制限を設けていないことと、行事の際はご家族も参加出来る催しも開催し、一緒に楽しめる配慮を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。また、自分の家の状況を確認に行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送ること、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加(夏祭りや運動会)し、日々の楽しみに繋がるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を正しく伝えと同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡を取り、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えると共に、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行っている。また、日中と夜間でオムツの形態を変えたり、オムツではなく一般的な下着を使用してもらうなど、自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴と定めているが、本人の希望があれば午前の入浴にも対応している。また、入浴回数も制限をしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、お酒やタバコの希望があれば制限していない。また、外食やホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Cユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出を計画し、外出出来るように支援している。またお盆などでのお墓参りではご家族様の協力を得て外出している。また、車椅子でもJRを利用し行きたいところに出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200832		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームたいへい Dユニット		
所在地	札幌市北区太平2条4丁目1-55		
自己評価作成日	令和1年12月1日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190200832-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・立地場所のすぐ目の前にはJR太平駅、国道231号線も近くに通っており、交通の便が良く、小学校やスーパーなどもあるため、地域との交流も図れる環境に立地しています。
・入居者様の歩んできた人生を重んじ、今までの日常生活が変わらず過ごせるように支援するため、一つの生活空間が6名という少人数の中で、生活時間帯は手厚い人員配置のもと認知症ケアを行い、若年性認知症など個々に合わせた専門的な支援を行っています。
・健康面では協力医療機関と提携し、月2回個別に医者の訪問があるのと、訪問看護による週1回の健康管理を行っています。また、突然の体調変化にも対応出来るよう、24時間医者・看護師と連絡が取れる体制を整えています。栄養面でも楽しみの一つとなる食事は、管理栄養士による栄養バランスのとれた献立に基づき食事を提供し、個々の食事形態(キザミやミキサー食、塩分制限など)に合わせた食事の提供も可能です。祝祭日・行事などの日にはお祝いのメニューもあります。
・四季折々の行事の開催や、手厚い人員配置を整えているため、個別の外出支援など入居者様の要望に合わせた日常の楽しみとなる支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットに掲示して共有し、その理念に基づき実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じての交流、町内のイベントへの参加(夏祭り、運動会、日常の散歩など)やボランティアを招いての交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は町内会の役員を行っており、その中で月に一度開催される会議で、地域が抱える福祉関係の問題があれば、常にアドバイスや協力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で出た意見・要望があれば、改善出来るものは改善し、サービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況調査や事故報告での関わりはあるものの、それ以外では積極的な関わりは薄い現状にある。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針や身体拘束排除宣言を各ユニットの事務所に掲示し、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修への参加やユニット会議内で虐待についての話し合いなどを行っている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないこともあり、関係機関と学ぶための交流はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には重要事項説明、利用契約書を説明し同意を得ている。また、改定がある際は文書や運営推進会議の場で説明し、書面に同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見や、日々ご家族様が訪問した際に相談や要望があった際は、会議の場で検討し極力運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議の場で出た意見を取り入れ、入居者様の利益に繋がるものは積極的に取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員の確保や制度の活用、毎年の昇給を行い、労働環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修計画を立て、職員に合った研修を行って、職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全職員とはいかないが、別事業所への訪問や、別事業者から職員の派遣を行い、普段と違った価値観やホーム作りを感じてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・嗜好・趣味・特技などを事前に本人、ご家族、医療機関、利用していたサービス事業所などから情報収集し、利用開始前に把握し、良い関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望・希望・不安・気になることなど利用開始前から話を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には出来るだけポイント絞り込み、今必要な支援と、関係作りの構築に集中するように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事と出来ない事の見極めをし、出来ることは行ってもらいながら生活して頂き、共同生活であることを実感してもらえるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族様の交流が保たれるように、面会の時間制限を設けていないことと、行事の際はご家族も参加出来る催しも開催し、一緒に楽しめる配慮を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族は勿論のこと、友人など面会制限することなく、関係を継続している。また、自分の家の状況を確認に行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話出来るような空間を作り、関係を維持または構築できるように配慮している。時には、ユニットに拘ることなく、ユニットを跨いで関わりあえるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームからの積極的なアプローチは控えているが、連絡・相談があったときは、支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズが何なのか？を毎月のユニット会議で検討し、ニーズが満たすには何が出来るかを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴などを把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、生活の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で生活の振り返りを行い、より良い日常生活が送れるように話し合い、ケアプランや行事に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉を記録に残すことや、申し送ること、職員が把握し、ケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族のニーズによって、ホームが対応出来る範囲であれば、多岐に渡って柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加(夏祭りや運動会)し、日々の楽しみに繋がるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している往診に拘ることなく、長年通っていた病院とも連携し、納得の出来る医療が受けられるように配慮している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問する訪問看護師に日々の気づきを相談し、専門的なアドバイスを受けて、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を正しく伝えと同時に、往診Drからの診療情報提供書を添えて医療を受けてもらっている。また、入院中は少なくとも週1回は病院連携室と連絡を取り、早期退院に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化の指針の説明を行い、終末期には家族・往診Dr・ホームの3者で話し合いを行い、ご家族の希望に添えるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連事業所と合同で救命救急の講習を受けるなどし、急変時の対応が出来るように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害に備えると共に、食料・暖房・災害時の備品の備蓄をすることで、災害に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの基本である言葉使いについては、各職員に対応の振り返りを行ってもらい、尊厳を持った関わりが出来るように配慮してもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事など職員で決めるのではなく、入居者様の意見を最大限に反映させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	選択肢のある問いかけをし、どのように過ごしたいかを希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が望む、装飾品や化粧品、美容などを制限することなくしてもらっている。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・調理など出来ることをしてもらいながら、食事を楽しみ、協同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作るバランスのとれた献立に沿って食事を提供している。また、食事形態については個別にキザミ食・ミキサー食などにも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、肺炎予防などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に時間によるトイレ誘導を行っている。また、オムツではなく一般的な下着を極力使用してもらうように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特別な病気がない限り、色々な水分で1日1500ml程度水分を摂って頂くことと、1日1度は身体を使った運動(体操・レク)を行ってもらい、便秘予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴と定めているが、本人の希望があれば午前入浴にも対応している。また、入浴回数も制限をしていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中運動や散歩を行い、夜間眠れるように支援している。また、個別で昼寝が必要な場合は夜間に影響しないような時間(1時間程度)休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし、常時閲覧できるようにしていることと、場合によっては連絡ノートで副作用について情報を共有したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割をもった生活が出来るように支援したり、お酒やタバコの希望があれば制限していない。また、外食やホーム内で毎月行事を企画し、楽しみとなることを提供できるように支援している。		

ふれあいの里グループホームたいへい

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Dユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出を計画し、外出出来るように支援している。またお盆などのお墓参りではご家族様の協力を得て外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での現金管理は行っていないが、外出の際に支払いを本人に行ってもら、などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は事務所の電話をつかってもらったり、かかってきたときは直接本人につなげている。自由に電話出来るように支援している。また、携帯電話の所持も自由に行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に明るくするように配慮し、出来るだけ昼夜が把握出来るように太陽の光が入るようにしている。また、季節に応じて装飾を変更するなど、四季が感じられる空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置などは固定しておらず、自由に過ごせるように配慮している。また、ユニットに拘ることなく、違うユニットに行くことも自由に行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ち込んで頂き、今までの生活空間に近づけてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線には手すりの設置や安全な空間(廊下などのスペース)をとっている。また、場所がわかる表札などを設置し、場所の認識が出来るように配慮している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームたいへい

作成日：令和 2年 3月 5日

市町村受理日：令和 2年 3月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	救急救命訓練を職員の4割程度しか受けていないため、入居者の急変時に対応出来るように全職員が受講し、救急時に対応出来るように備える必要がある。	1年以内に全職員が救急救命訓練を受ける。	消防署と連携し救命訓練を実施する。	1年
2	4	運営推進会議の参加者が毎回6名程度のため、参加人数を増やし、活気ある会議にしたい。	参加人数を増やし、活発な意見交換が出来るようにする。	会議の案内文章内にご家族が興味を示すような議題テーマを記載し、参加者が増えるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。